

【やりとりと判定の実例：C1〇】

<ロールカード>

状況A

あなたは日本の企業の採用面接を受けています。

この企業では、社会的な問題について関心を持ち、幅広い視点で解決方法を考えていけるような人材を求めています。

あなたは今、自己紹介や志望動機などについて話し終えたところです。

課題

面接の最後の10分間で、あなたの国の社会問題とその影響や背景について聞かれました。

30秒で何について話すかを考えた後で、面接官の質問に答えてください。

<C1 のタスク達成の手がかりとして引き出す内容>

- I 問題の具体的な内容を社会的な影響や背景と関連づけて流暢に筋道立てて詳細に説明できるか。
- II 問題を解決するための取り組みを、I で説明したことと関連づけて具体的に提案し、その効果が説明できるか。提案ができない場合は、その理由が説明できるか。
- III II でやり取りした内容について、更に掘り下げた質問や別の視点からの質問をされたとき、それまでの議論と関連づけて、自分の見解を、補強したり修正したりしながら筋道立てて詳細に延べ、議論を続けることができるか。

T：テスター、S：受験者

※「判定の根拠」の欄に示した引き出す内容 I・II・III は <C1 のタスク達成の手がかりとして引き出す内容> にあたります。

はつわれい 発話例	はんてい ごんきよ 判定の根拠
<p>T: &lt; 略 &gt; 今日、面接の最後です。残りの10分ぐらいで、最後に、あの、        ◆◆◆の国の社会問題について、質問したいと思っています。今、◆◆◆さん        の国の新聞や雑誌、ニュースなどで大きく取り上げられている社会問題にはど        のようなものがあるでしょうか。 &lt; 略 &gt;</p> <p>S: はい、わかりました。よく言われるのはですね、まあ晩婚化がよく取り上げら        れてるんですが、えー、例えば伝統的には、昔から男性は20代で結婚して、女性        もまた20代、まあ少し前にいくと女性が18歳とか17歳、結婚した、あるいは        それよりも年下で結婚したケースもあったんですけども、最近になってです        ね、男性がほんとに30代に入っても結婚するチャンスがなかなかない、私自身        の周りには40歳、45歳、50歳の友達一人いるんですけども、結婚してない、        周りにはあ女性も男性もほんとに、30代に入っていて結婚してないというのが        多く見られるようになってしまっています。①</p>	<p>① 社会的な問題（晩婚化）の        具体的な説明ができる        = <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ひだないよう</span>        = 引き出す内容 I</p>

T: うん、なるほど、では、その晩婚化というものの問題は、社会的にはどのような影響というか問題があるんでしょうか。

S: そうですね、まあ第2次世界大戦の前には、おそらく先ほど言った私の国の状況と同じようにどこでも結婚がね、まあ20代が一般的だったのですが、今はそうじゃなくなってしまって、この状況が進められるとですね、人口減少につながってしまう恐れがあります。それからまあ、高齢化の問題もまたこう発生してしまうんじゃないかという指摘がよく耳にします。②

T: で、まあ晩婚化っていうのは、いろんな影響があるということなんですが、少し、どうして晩婚化っていうものが起こってきたかという、社会的な背景について少しお話いただけますか。

S: そうですね、いろんな要素が絡み合っ、こうなっているかと思うんですが、まあ主な原因として申し上げられるのはですね、やはりその、就職の場が非常に、こう減ってきている、減少しているというのは、あのあるかと思うんですね。人はやはり、あの一、就職できないと、やはりその結婚の相手にされにくくなってしまいうのがあると思います、あと本人もその、やはりその結婚しようという、こう希望がなかなか出てこないというのがあると思うんですね。まあ、その中でですね、どうしてこうなってしまったかというんですね、現代化が進められてきて、やはり機械が、あらゆる機械が人間の代わりに、仕事できるようになったというのがあると思うんですね。③

T: じゃあ、その晩婚化の問題について、社会として、どのような制度をですね、まあ整備したら、その問題を解決していけるかということについては、どのようにお考えでしょうか。 [A]

S: そうですね、あの、社会が整備すべき制度はですね、いろいろあると思うんですが、まあこれ一つは私の国で問題になるのはですね、就職活動の、その開始がですね、もともと就職活動というのがなくてですね、学生が大学を卒業、学士課程、修士課程が終わってから、仕事を自分で探すということが一つの問題で、あの、なかなかやっぱり個人の努力では、仕事を見つけることが難しいと思うんですね。そこで、あの、個人的に思うのは、えー、日本に見習って就職活動の早期開始をいわゆる、その、就活ですね。それまあ、大学、学士課程の3年生あたりになると、それを始めれば、やはりそれぞれの学生が自分の専門に合った、あるいは、その自分の好みにあった仕事を見つけるのではないかと、思うんですね。ただ仕事、やはりあって、また、その仕事でこの夢中になって多忙で、その、人との出会いが少なくなってしまうという恐れもあるかと思うんですね。そこでやっぱり人が結婚できるような制度を、まあ社会がうまく作成できればいいかと思うんですけども。例えばですね、出会いの場を作ることを考えればいいかと思うんですが、それは、いろんな方法があるかと思うんですけども、まあ結婚相談所というのが一つ。あるいは、まあ信頼できる正式に認められた結婚サイトとかも増やすのも、一つの方法じゃないかと思うんですね、そうするとやはりその、就職のチャンス、あと人と人との出会い、結局、結婚するチャンスをバランスよく考えれば、まあ、こうした社会問題が解決するようになるんじゃないかと私は個人的には思います。④

② 晩婚化の社会的な影響の説明ができる

= [ひだないよう] = 引き出す内容 I

③ 晩婚化の社会的背景や要因の説明ができる

= [ひだないよう] = 引き出す内容 I

④ 新しい取り組みの提案とその効果の説明ができる

= [ひだないよう] = 引き出す内容 II

<p>T: なるほど、まあ晩婚化という問題が解決できたとしても、次は、子育てをどのように支えていくか、という新しい問題が出てくるかとは思いますが、そのことについては、どのようにお考えでしょうか。 [B]</p> <p>S: おっしゃる通りだと思います。例えば、仕事のチャンスが増えればね、共働きになってしまったりとか、えー仕事で、多忙で、せっかく結婚したにも関わらず、今度、こう子どもが産めなくなってしまう、忙しさで、という問題が出てくると思うんですけども、その中でですね、社会が例えば、その就労支援をきちんとする制度を作ったり、あるいは、まあ、子ども、子育て支援を、えー、まあうまく調整したりするのがいい方法じゃないかと思うんですね。いろんな地域に幼稚園の数を増やしたりすれば、まあ、子育ての問題が解決なるんじゃないかと思うんですね。それと同時に、まあ仕事のない一部の人たちが、例えばその幼稚園の数が増えたとして、そこで例えば、ベビーシッターをしたりとかすれば、また新たな就職口も作られてくるんじゃないかと思えますね。</p> <p>⑤</p> <p>T: はい、えーと、今日はですね、我が社の面接に、えー、来てくださってあの、大変ありがとうございました。 &lt; 略 &gt;</p>	<p>⑤別の視点からの質問への対応が積極的に行ける</p> <p>= [ひ だ ないよう] = 引き出す内容Ⅲ</p>
---	---

この例では、①で晩婚化という現象を、過去と比較して具体的に詳しく説明し、②と③で社会に与える影響と背景を説明し、引き出す内容Ⅰについて話すことができていると考えられます。 [A]で [ひ だ ないよう] として新しい取り組みを提案するように求められると、④で分かりやすい具体例を挙げ、理由や効果も流暢に説明しています。 [B]では、晩婚化に関連し、子育て支援という新たな点についての見解を求められます。これは [ひ だ ないよう] にあたります。これには⑤で、前に話した就労支援と関連づけながら、保育施設の増設が新たな就職口を生むことになるという見解を述べています。ここでは明快に現状の説明や仮説を述べていると判定できます。発話は全体として流暢で、話の筋立てが良く分かり、相手からの質問やコメントに積極的に対応しています。

この例は「社会的な話題を扱ったフォーマルなインタビューで流暢に明快に」何とかが対応してやりとりできるので○と判定しました。余裕を持って十分にやりとりができる○と判定するには、議論を複数の視点から自在に深めたり広げたりできなければなりません。しかし、この例では、例えば③で、晩婚化の背景として社会の「機械化」を挙げていますが、解決すべき制度についての提案④で、この点については触れていないため、相手とのやりとりを通して説得力ある議論を自在に構築するレベルには至っていないと判定します。